

1 日時 令和3年6月28日(月) 10:00~12:00

2 会場 静岡県立袋井特別支援学校 会議室

3 参加者

(1) 学校評議員4人 学校評議員A、学校評議員B、学校評議員C、学校評議員D

(2) 学校関係者8人 校長、副校長、教頭、事務長、各部主事、教務課長

4 内容

(1) 開会挨拶(校長)

学校コロナ対策をしながら、教育活動を行っている。

来年度は学校運営協議会となる。そのことについても後半で説明をしていくが、これからも御意見御感想などを教えていただきたい。

(2) 自己紹介

～学校評議員 自己紹介～

学校評議員A：福祉会理事長

学校とは、就業先としてのつながりがある。学校と連携して、働きやすい場づくりを考えていきたい。

学校評議員B：地域センター館長

学校とは避難所としての利用や館のまつりなどで作品展示を行っているなどのつながりがある。地域の子どもの安心・安全を守ることも行っている。交通、不審者本校の児童生徒も分け隔てなく見守っている。

学校評議員C：本校卒業生とサッカーOB会を立ち上げた。先生方の熱意は知っている。

学校評議員D：就学前の支援をしている。今後も学校と連携していきたい。

(3) 学校紹介(部主事)

- ・各学部主事より学部概要説明及び動画による学習の紹介
- ・訪問教育は絵本を紹介

(4) 学校概要 本年度の経営計画の説明(校長)

- ・校長より本年度の学校経営計画についての説明をする。

(5) 教育活動等への提言(各評議員)

学校評議員A：目指す児童生徒の姿 “自ら光る子”、“人間ならではの感性” どういう子を育てたいのか、文字だけでは分かりにくい。

校長：皆が共有でき、想像できるものとならなくてはいけない。

“自ら光る”は、反射ではなく発光だと考える。その子自身が、今もっている力を発揮できること。331人のどの子も。小学部、中学部、高等部の目指す児童生徒像には、学びの姿を掲げている。

学校評議員A：“自ら光る子”は、その子が持っているものを認める、受け止める姿勢も大事。

学校評議員B：今までは、切り取った部分のみを参観させてもらっていた。今回は動画による紹介で、いつも見られない部分も見られて良かった。今後、“このような子たちに…、先生たちが支援して、言葉掛けをして…”というあたりを紹介できると良いと思う。

学校評議員C：多くの活動があって大変ではないか。先生たちの負担は大丈夫か？ICTが進み、これによって先生たちの負担もあるのでは。外部の力を借りたらどうか。

“光る子”について…社会に出てからは厳しい。でも、サッカーなどでのつながりがあって良い。輝ける。

学校評議員D：子どもたちの活躍する場が作られている。自己実現に繋がる。昨年度いただいた学校評価より、教員の評価が自分たちに厳しいところもあれば、良いところもある。学校の総合的な評価についてわかることがあれば教えていただきたい。

校長：動画について、好評価をいただき嬉しい。現在、動画については、校内で特定の人に見てもらおうようにしている。多くの人に見てもらおうことにためらう保護者がいる。ICTによる業務の多忙化を心配していただきありがたい。

教務課長：学校評価について、教員による評価を基に、他評価も含めて総合的に評価している。

(6) 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）について説明（校長）

- ・来年度から実施するため、今年度は準備を進める。
- ・“地域とともにある学校”→特別支援学校は学区が広い。どのようにしていけば良いか。
- ・双方向の支援、育成ができるようにしていきたい。

(7) 学校運営協議会制度についての意見等

学校評議員B：現在、近くであると高南小学校、袋井南中学が、南の丘学園として、子どもたちにギャップが生まれないようにしている。学園内のイメージ図がある。年3回会議を開いている。不登校、挨拶等、地域の子どもたちの様子について話されている。PTAと自治会、地域の有識者などがメンバーとなっている。地域で子どもたちを育てていくと考えている。

(8) 今後の予定（副校長）

- ・次回、第2回学校評議員会は、10月26日（火）。2ヶ月前には連絡を入れる。

(9) 閉会挨拶（校長）

- ・昨年度は、様々な面で計画通りに進められなかった。今回は、対面式で行うことができ、動画ではあるが児童生徒の様子を見ていただくことができ良かった。